

# 竹林精舎落慶供養之辭

昭和五十六年十月二十四日 於竹林精舎

## 南無妙法蓮華經

二千五百年前當時磨碣陀國の大王頻婆沙羅が、其五つの誓願に基いて彼の居城旧王舎城外、温泉に近き聖地に、大精舎を造り、仏教の教主釈迦牟尼世尊及び其弟子を請じ入れた所、名を竹林精舎と号けた。竹林精舎は釈迦牟尼世尊の教団の中に於て初めて建立せられたる精舎である。新に開かれたる仏教は、此竹林精舎に於て宣伝された。五天竺は忽にして、仏教が広宣流布して仏教の教団となつた。然るに時代の変遷に従て、仏教は漸く印度以外の諸国に伝播し、到る處に平和國家を作り、万国を皆仏教化した。就中仏滅後二百年に出世せし阿育大王は、当時の世界に、偏く仏教を弘めた。現在にもアジア諸国は、皆仏教を信仰して居る。

仏滅後一千年を経て、仏教は印度に衰頽し、印度国家も亦衰微し、回教徒が印度に侵入するに由て仏教は印度に全滅した。

然るに近世マハトマ・ガンディーの非暴力運動に由て、印度は完全なる独立自治の大国家を建設し、

平和国家の旗色を鮮明にし、其根本方針として仏教復興を誓つた。

初代首相ネールを復興委員会長とし、五人の委員を定めた。仏教復興の最初に王舎城を目指し、其始めに竹林精舎復興を志した。

日本仏法の南無妙法蓮華經の開祖、日蓮大聖人は印度の仏教復興を以つて、日本仏法の使命であると宣言された。今歲は日蓮大聖人御入滅七百遠忌に相当する。此年此處王舎城竹林精舎趾に接して、竹林精舎が宏大なる規模を以て、日本仏法の一門の発願に由て復興され、今日印度大統領を迎えて開堂供養の盛典を挙ぐる事を得た。

予は日蓮大聖人の遠孫として日本仏法の使命を自覚し、印度に渡りて、所謂西天開教に從事する事五十余年を経過した。今日印度に於て、日本仏法の弘通が何の障りもなく行われる事は、偏に非暴力運動による印度独立の賜である。若し印度が独立せなかつたならば、日本仏法は印度に於て弾圧追放せられたのであろう。印度大統領を始め、毘波留州総督及び首相の参詣は、日本仏法に対する印度国の比類なき理解であり恩恵である。深く感謝の念を捧ぐる。

日本仏教は妙法蓮華經を所依の經典とする。妙法蓮華經は教主釈迦牟尼世尊御年七十二歳にして、此処王舎城靈鷲山に於て説き始められ、八ヶ年にして説き終られた。是に於て釈迦牟尼世尊が此娑婆世界に出現し給ひし出世の本懷を残す処なく説き終らせ給ひ、御年満八十にして靈鷲山を下り入涅槃の旅に

立たれた。

妙法蓮華經は予言の書である。

日蓮大聖人曰く「仏の出世は靈山八年の諸人の為にあらず、正・像・未の人の為也。又、正・像二千年の人の為に非ず。末法の始め予が如き者の為也。然も病者と云ふは、滅後の法華經誹謗の者を指す也。」

妙法蓮華經如來壽量品に云く

「衆生劫盡きて大火に焼かるると見る時も、我此土は安穩にして天人常に充滿せり。園林諸の堂閣、種々の宝を以て莊嚴す。」云々。此の經文は正しく現代の予言である。

「衆生劫盡きて大火に焼かるると見る時、」とは、總て生命ある者、空中・地上・水中に於ける一切の諸の生物が、其生存する事能はざる時代が来る。其生命を奪うものは、大火災であると云う。其大火炎は從来は地中から噴き出す火炎と解釈された。まさか人間の作る火を以て一切の生命を焼き盡さうとは誰も夢にも想はなかつた。

然るに第二次世界大戦に開発された原子爆弾・水素爆弾は、正しく一切衆生則生命有る所總ての者を悉く皆絶滅せしむる大火炎であつた。則核兵器の開発である。核兵器は全世界を焼き盡して余りある大量過剰の核弾頭が地上に拡散された。其爆発は恐らく今世紀末迄の期間であろうと推測される。是が則「衆生劫盡きて、大火に焼かるると見る時。」である。

日蓮大聖人は解釈された。

妙法蓮華經如來壽量品に曰く

「是の良き薬を今留めて此處に置く。汝等取つて服すべし、差へじと憂うことなけれ。」と、此娑婆世界に留め置かれたる良薬とは、今日精神的狂乱を平癒せしむる良薬である。それは南無妙法蓮華經の五字七字である。地上に猥なく燃え拡がらんとする大火焰を、但だ此一言の經文を唱うる事に由て、消し止めが出来るとは信じ難いと疑うな、疑へば汝等の憂ひ、心配は他に解消する手段はない。

疑はず信じて南無妙法蓮華經と唱へよ、唱ふれば必此大火焰を消滅せしむる事が出来る。と説かれた。

「天下万民一同に、南無妙法蓮華經と唱へ奉らば、今生には不祥の災難を払い、長生の術を得、人法俱に不老不死の理り現れん時を各々御覧ぜよ、現世安穏の証文疑有る可からざるもの也」と日蓮聖人は勧められた。「我が此の土は安穏にして、天人常に充满せり、園林諸の堂閣、種々の宝を以て莊嚴す。」と云う經文は、二十一世紀の未來記である。

核兵器の大火灾の灾害は、現代何所にも是を消除する手段はない。核兵器の灾害は、是を開発し、是を使用する人間の精神的狂乱に由る発作である。精神的狂乱さえ平癒すれば、核兵器は兵器自ら爆裂し

て人間世界に災害を及ぼす恐れはない。

経に曰く、「他の毒薬を飲んで本心を失ふ」と説かれた。本心とは、人間本来生れ乍らにして具足したる人間相応の心の活動である。親が子を殺す、胎内の我子は已に其親の敵である。子が親を殺す。王位を奪い家財を奪わんが為に、我親は其子の敵である。姦淫の結果として、夫は妻を殺し、妻は夫を殺す。猛獸でも毒蛇でもそんな恐しい事はせない。此の如き行為は人間相応の心、則本心の活動ではない。人倫道徳の違叛者である。然し是はなほ教訓して本心に立帰らしむる事ができる。道徳は其為に弘められた。

仮使国位を奪い財宝を奪い性欲に溺れても、人類全滅の災害迄には拡がらない。王舍城に於ける阿闍世王の惡逆は其例である。然るに今度戦争が起れば人類全滅の悲劇が生ずる。戦争は軍隊と称する大集団と、軍需産業者と、科学者と政治屋との組織結合に由て行われる。彼等の権勢欲と金錢欲、則貪欲心が戦争の動機となる。仏法には戦争は貪欲から起ると説かれ、人間生活の第一条件として、貪欲心の抑制を教えられる。之に反して貪欲心の発達を促して生活の向上と想うた。国民挙て生活の向上の為にと信ずる時に、戦争も亦罪悪とは想わなくなり、殺人・破壊も亦宛も日常茶を飲み、飯を食う程の仕事をするが如く考え慣わした。是が則他の毒薬を飲んで本心を失つた世相である。

近代文明は、人類すべて起て戦争を讃嘆し、其殺人数の多きと、都市破壊の無残なる事を宣伝するに

懸命である。近代文明・科学文明には、戦争を廃絶する功能は毛頭ない。是が毒薬と説かれた所以である。之を要するに、現代文明が物質文明であり機械文明である。機械の開発が核兵器となつた。是が人類生存の為に有害無益となつた。是を作つたのも人間であれば、是を排除するのも亦人間である。機械文明の迷信から解脱し覚醒して、精神文明の人間本来の生活方針に立返れば、それで核兵器は直ちに葬り去られる。人間の狂乱が直れば、核兵器を排除するのに何の困難もない。

精神文明の発祥地が、広い世界の中に於て則、此王舍城竹林精舎である。竹林精舎の再建は、現代人類を悩ませしむる毒薬たる物質文明抑止の良薬を提供せんと欲するものである。十方世界より来集し給へる諸君は、皆核兵器全廃・軍備撤廃を目指す軍縮論者である。此竹林精舎は、諸君の崇高なる目的を論議し達成せしめんが為に、活用されん事を希望する所以である。此竹林精舎は、仏陀の教訓を現代に活用する所である。彼の徒に古典の解釈・研究に耽る場所ではない。葬式・回向の道場でもない。

天下泰平・国土安穏の祈念所である。世界平和の建設所である。立正安國は竹林精舎復興の本意である。